

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	新治村立山ノ荘小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	11
児童数	22	20	28	21	15	20	0	126	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人の学習意欲を高め、基礎基本の確実な定着をめざす指導法の研究  
～国語科における「読むこと」能力の育成を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・国語<5・6年は教科担任制で>  
小学校段階における国語科の学習は、確かな学力の最も基盤となる教科である  
と考えたため。

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ 一人一人の学習意欲を高め、国語力の向上を図る指導法のあり方 —— 読む力の育成を通して ——</p> <p>仮説 個に応じた指導方法の工夫・改善や読書活動の活発化を図り、一人一人に読む力(言語を正確に理解する力)をつければ、学習意欲が高まり、国語の学力が向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法 (1)授業研究 ・授業の質・教師の力量を高めるための研修と実践 教材解釈、教材研究 ・教科担任制(5・6年の国語) 教科担任と学級担任によるTT 課題別学習やコース別学習 ・説明的文章と文学的文章の「学習ステップ」の作成</p> <p>(2)授業を支える学びの環境づくり ・読書活動の充実 低中高の分館「やまびこ文庫」の設置、ブックトークの活発化 ・月例テストによる漢字力の定着 ・全校で取り組む詩・俳句づくり</p>
----------------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 一人一人の学習意欲を高め、基礎基本の確実な定着をめざす指導法の研究 ～国語科における「読むこと」能力の育成を通して～</p> <p>仮説 (1)「読むこと」の学習指導の系統性をおさえ、段階的に指導すれば、基礎・基本が確実に定着するであろう。</p>
----------------	---

(2) 単元構成を工夫し、1時間1時間の授業を充実させるとともに、個に応じた学習指導を図れば、学習意欲も高まり、確かな学力が身につくであろう。

(3) 読書指導の充実を図るなど、「授業を支える学びの環境づくり」をしていけば、学びの基礎の力がつくであろう。

#### 研究内容・方法

(1) 「読むこと」の学習指導の系統性をおさえ、段階的に指導する。  
「読むこと」能力を育てるための小学校で指導すべき指導事項を、学習指導要領をもとに、1・2学年 3・4学年 5・6学年 こと文種ごとに系統付け、それを実際にどの教材で指導していくかを表としてあらわす。

(2) 単元構成を工夫し個に応じた学習指導を展開する。  
単元構の際に、「読むこと」能力を育てることを目的とした課題を多く設定し、「読むこと」の指導を十分に行い、確かな読みを身につけさせてから、「書くこと」「話すこと・聞くこと」の活動へと広げていくようにする。つまり「読むこと」領域の指導に厚みを出すことで、その後の学習活動の質も高まるのではないかと考えているのである。

「読むこと」領域の指導に厚み



「書くこと」「話すこと  
・聞くこと」領域の質の向上

(3) 学びの環境づくりをする。

国語の授業だけで基礎学力を身につけさせたり、読書活動を推進させたりするのは難しい。特に、「読むこと」の指導については、日常の指導の中で、直接的、間接的にはたらきかけていくことが大切であると考え、次のような手だてを実践する。

① 読書活動の充実

朝の 8:15 ~ 8:30 を読書の時間とし、全児童全職員が静かに本を読む時間を確保する。低・中・高の各分館として「山びこ文庫」を設置したり、読書カードや教室環境を工夫したりして子どもの意欲の向上に努める。

② 月例テストの活用

毎月末に、漢字力・計算力のテストを行っているが、その補充指導は放課後や裁量の時間に実施している。

③ ドリルスキル学習

漢字ドリル、計算ドリルの繰り返し学習は学力向上の必要条件であるととらえ、力を入れて指導する。

④ 全校で取り組む詩・俳句づくり

子どもの感性や言語感覚を磨くため、詩や俳句づくりに力を入れており、コンクールに応募したり、新聞に投稿したりして励ましている。

なお、学区内に「小町の里」があり、昨年11月には、「全校親子ハイキング」を実施し、その際「親子俳句大会」を行った。作品は階段の踊り場の「小町コーナー」に掲示したり、学校便り・広報誌等で紹介したりしている。

⑤ 家庭との連携

学力向上のためには、家庭との連携も大切であり、昨年2学期より、家庭での学習の推奨として、「スタディタイム」を呼びかけている。学校便りで紹介したりしながら、その定着を図る。

⑥ 読み聞かせ会

1~4年生を対象に地域のボランティアグループによる読み聞かせ会を実施している。

平成

#### テーマ

一人一人が主体的に取り組む国語科学習のあり方  
— 読む力、伝え合う力の充実をめざして —

16  
年  
度

### 仮説

個に応じた指導方法の工夫・改善を通して、子どもが主体的に国語の学習に取り組めば、読む力や伝え合う力などの国語の学力が向上するであろう。

### 研究内容・方法

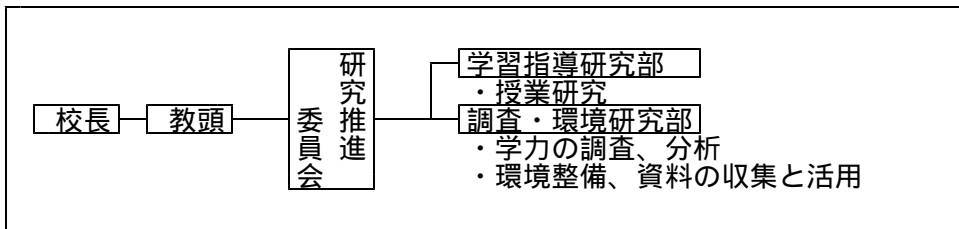
#### (1) 授業研究

- ・ 授業の質の向上（教材解釈、分析力）
- ・ 「学習ステップ」の改善 個に応じた授業の展開の工夫
- ・ 少人数指導の実施
- ・ 発展的学習、補充学習の指導の工夫

#### (2) 授業を支える学びの環境づくり

- ・ 国語科と他の教科領域との関連をふまえた指導
- ・ 家庭や地域との連携による指導

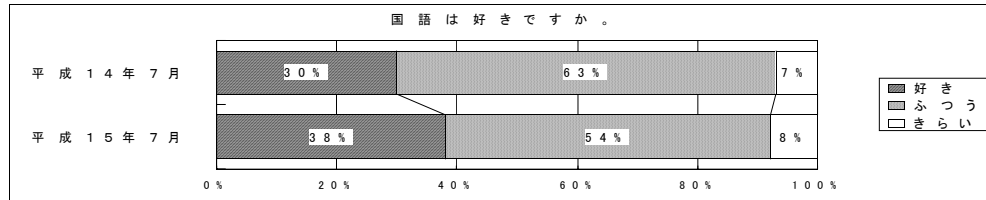
### (3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

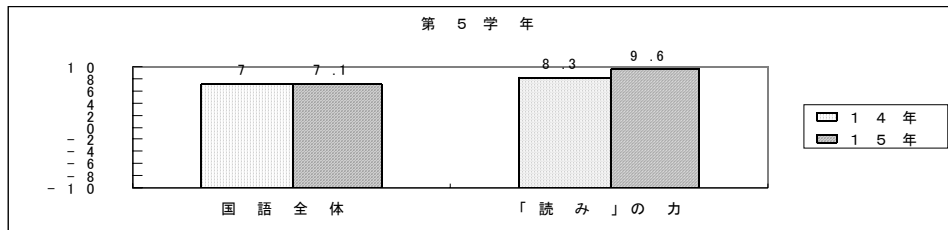
### 1. 研究成果

#### (1) 児童の意識調査より



「好き」と答えた児童が8%増えた。また、「どんな学習が好きですか」の問いには、「音読」「読書」を好きと答える児童が多く、その割合も増加した。

#### (2) 県「学力診断のためのテスト」の結果より



15年度第5学年（15名）は、比較的学力の高いクラスで、各教科とも県平均正答率を上回っている。国語の「説明文・物語文を読む力」の項目においては1.3%の上昇となった。

#### (3) 児童の変容

- ・ 単元構成を工夫し、「読むこと」領域の指導に厚みをつけた結果、目的に応じ、内容の中心・要旨をとらえながら読む力が向上しつつある。

- ・学びの環境づくりを進めているなかで、国語に対する関心・意欲が高まり、読書に親しむ態度も育ってきている。

(4) 教師の変容

- ・「読むこと」の学習指導の系統表により、どこを重点的に指導すればよいか、よくわかるようになった。
- ・T・Tを日常的に実施することにより、個に応じた指導方法を工夫しようとする意欲が高まった。

2. 今後の課題

- (1) 「読むこと」の指導の段階の中で、個に応じた指導をどのように効果的に位置づけていくか。
- (2) 学習意欲を高め、確かな学力を身につけるため、指導と評価の一体化をどのように図っていくか。
- (3) 授業の質の向上をさらに図るとともに、学力向上のための手立てをどう工夫していくか。
- (4) 発展的学習と補充的学習の教材開発をどうすすめていくか。

学力等把握のための学校としての取組

- (1) 県「学力診断のためのテスト」(4月実施)の結果分析
  - ・指導体制、指導方法の改善
- (2) 学習到達度テスト(2月実施)の結果分析
  - ・個に応じた指導方法の工夫
- (3) 月例テスト(毎月・漢字力)の実施
  - ・意欲づけ、励まし 漢字力の向上
- (4) 単元テストの実施
  - ・学習内容の定着 補充指導

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- フロンティアスクールとしての成果の普及について
- ・14年度・・・10/4 公開授業研究会の実施
  - 15年度・・・10/31 中間研究発表会の実施
  - 16年度・・・11月頃 完結研究発表会の予定
- ・ホームページにて研究の概要を紹介  
URL <http://academic2.plala.or.jp/yamanoes/>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 / 14年度からの継続校
- 【学校規模】 / 6学級以下 7～12学級  
13～18学級 19～24学級  
25学級以上
- 【指導体制】 / 少人数指導 / T・Tによる指導  
/ 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 / 国語 社会 算数 理科  
生活 音楽 図画工作 家庭  
体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 / 有 無